

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300917		
法人名	NPO法人 きらら山口福祉の会		
事業所名	きらら苑グループホーム		
所在地	山口市秋穂二島327-44		
自己評価作成日	令和3年4月12日	評価結果市町受理日	令和3年8月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年5月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年4月に開設し、平成25年4月より1ユニット増設しました。愛ユニット、花ユニットの2ユニットです。花ユニットの玄関先には足湯を設置しています。きらら苑は海と山に囲まれた自然豊かな立地にあります。家庭的な雰囲気の中で毎日入居者様が笑顔で過ごしていただけるような関わりを大切にしています。週1回、かかりつけ医より往診があり、必要時にはいつでも身体状況の事などで、相談、連絡、受診又は往診できる体制にあります。地域の方とのふれあいを大切にしており、行事のお誘いや、新鮮なお野菜の差し入れを頂くなど、日常的な交流を図っています。令和2年度はコロナの影響で行事が中止となりましたが、地域の方々と交流を持ち、地域に根付いた施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、日々の関りの中で利用者一人ひとりの言葉や表情、日常の行動を詳細に介護記録に記録され、本人の思いや意向の把握に努めておられ、その人らしい生活ができるよう日々支援されています。利用者一人ひとりの状態の経過表を作成され、その記録表を参考にして月1回の話し合いを重ねられた、ケアプラン作成につなげておられます。事故防止の取組みでは、年度末に、1年間のヒヤリハット報告を集計分析されて、転倒の危険のある人にはその人にあった転倒防止のリハビリを行っておられる他、安全性に配慮した車いすの使用など、支援に努めておられます。災害対策では、防火管理者が毎月、防災マニュアルに沿って火災や台風・水害時の対応について職員に伝えておられ、火災時には、「火災専用通報装置」による近隣住民8軒の緊急連絡網の設置で地域との協力体制を構築されています。昨年の台風接近時には、利用者全員を事業所2階に避難誘導され、普段とは全く違った介護体験を経験しておられるなど、貴重な避難訓練を体験されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内のよく見える場所に理念を貼り付けており、日々、管理者は職員に共有する様に指導し、実践する様に努めている。利用者に関わる際には、理念を皆が実践に繋げられる様に心掛けている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、月1回のミーティング時やカンファレンスの中で話し合い、利用者一人ひとりの状況に応じてその人らしく生活できるよう、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体へ加入し、回覧板を持って行ったり、行事等の事でご挨拶に伺ったり、清掃活動等、度々交流する機会を持っていたが令和2年度はコロナの関係でそういった事を状況により控えている。伝達などは電話や、郵送をする等して交流を継続している。	自治会に加入している。昨年は、新型コロナの影響で、従来から行われていた諸行事への参加は出来なかったが、行事の案内を受けた際に、事業所から電話したり、プリント物の配布を依頼した他、集会時にお菓子の差し入れをするなど、地元との関係継続に努めている。運営推進会議の地域メンバーに対しては、会議の開催中止が続く中、担当職員が郵送や電話で連絡を密にとるなど、配慮している。地域住民からは、新鮮な魚や海藻、野菜、花、元利用者の家族から古新聞の束の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症について、理解していただけるよう日々の交流の中でも伝えている。推進会議の場などでも認知症について発信し、意見も出ている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価結果については職員全員が意見を提出しまとめている。評価については、職員全体で話し合い日々の業務の中で職員1人1人が、評価に取り組む様に改善に努めている。	元管理者が、職員に評価の意義を説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布して、記入してもらいまとめている。職員は、自己評価を1年間の業務のふり返りと捉えており、今回は、新型コロナの影響による家族等との面会制限の対応等について話し合っている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、緊急時の対応(打ち身、捻挫、骨折、誤嚥、口腔・鼻腔の吸引、回復体位等)の内部研修の充実を図るなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で、推進会議開催は感染状況を見て考慮し、1回だけの開催となった。利用者様の状況報告や、身体拘束等適正化委員会も同時に実施し、理解と支援を求めている。開催出来ない時は郵送にて状況を推進委員様に送っている。	会議は2か月に1回開催している。内5回は新型コロナウイルス感染予防対策として、文書で開催している。利用者状況やサービス状況、行事紹介、ヒヤリハットや事故報告を行っており、文書開催時の委員からの意見は電話で受けている。「身体拘束適正化委員会」を同時開催としているので、文書開催時には電話で詳細に現状を伝え理解を得ている。委員からは、「ヒヤリハット報告」だけではなく、良い話題があった場合における「ニヤリハット報告」もあってよいのではとの提案がある。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者への報告、相談は日常的にあり、適格な指示、支援をいただいている。推進会議の場でも、助言がありサービスへ活かしている。定期的に届くメールでも案内や情報を頂いている。	市担当者とは、介護保険の申請時に直接出向いたり、メールで情報交換や相談をして助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についてミーティングの際に勉強会を設け、職員同士が、考え学ぶ機会となっている。危険がありやむ負えず拘束をする場合等はご家族様に説明し納得の上、行っている。又状態を随時、見直しを行っている。	職員は、ミーティング時の勉強会や運営推進会議に合わせて実施している「身体拘束適正化委員会」で学び、抑制や拘束のないケアに努めている。危険があり止む負えず拘束しなければならない場合は、その理由を事前に家族に丁寧に説明し、了承を得た上で対応している。スピーチロックに気づいた場合には、管理者、職員間で注意し合う他、管理者が指導している。玄関は施錠せず、外に出たい利用者には思いを傾聴し、職員と一緒に付き添うようにしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員1人1人が虐待についての理解を深め、虐待の危険のない様ミーティングや勉強会で職員は意識の向上に努めてお互いが日々、注意し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている入居者様もおられる事から制度についてミーティング等で学ぶ機会がある。制度について活用できるよう、ご家族様への情報提供をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族に納得してもらえる様、分からない所は説明を繰り返し、いつでも質問、相談を受けられる様に支援している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人、ご家族のご意見や要望を積極的に取り入れ、職員は理事長、管理者に報告している。ご家族様の来苑時、電話ではご意見を積極的に聞き、サービスに反映する様に努めている。玄関にご意見箱を置いている。	契約時に、相談、苦情の受付体制、処理手続きを明示し、家族に説明している。面会時や運営推進会議、電話、SNS(ショートメール)で家族からの意見や要望を聞いている。利用者を担当している職員は、毎月、家族宛てに利用者の写真や生活状況を知らせて、意見や要望が言いやすいよう工夫している。家族からは、コロナ禍による面会制限の緩和への要望があり、玄関スペースの活用による短時間での面会などを工夫している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長、管理者は日々の業務の中や、ミーティングの中などで職員との意見交換が来ている。代表者は頻繁に現場に入って状況把握や意見を聞き、サービスに反映出来る様に努めている。	代表者は、月1回のミーティング時や日常の業務の中で職員から直接又は元管理者や主任を通して意見を聞き、日頃からいつでも話し合える環境に努めている。職員からは、移乗等の介助のための福祉用具の購入や職員の勤務時間、職員同士の関係、コロナ禍による自粛体制等の意見や要望があり、スライディングシートを購入や勤務体制・勤務シフトの調整、職個別面談の実施などを行っている。以前から要望のあった車椅子のまま乗ることのできる自動車は、民間放送局のチャリティー募金での寄贈を受けている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の面談を行い、職員の意見を反映させている。又、日常でも話し合う機会があり、代表者は意見や話に耳を傾けて反映し、働きやすい環境になる様努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内での勉強会、ミーティングでの認知症への理解、身体拘束についての勉強会などを職員育成の為、行っている。又、介護相談員の受入れも行っている。日々の業務の中で理事長、管理者より実践的指導を受けている。	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の希望や段階に応じ勤務の一環として受講の機会を提供している。本年度は認知症実践者研修会に参加している。受講後はミーティング時に伝達し、資料は閲覧できるようにして全員が共有している。内部研修は、月1回のミーティング時に職員全員が参加して1時間程度の勉強会を行っている。外部講師を招いて感染症について(予防)、救急救命法を実施している他、勉強会としてミーティングの中で代表者や元管理者、職員、看護師を講師として、認知症、不適切ケア(言葉の強弱)、グループホームとは、初期対応、緊急時の対応(打ち身、捻挫、骨折、誤嚥、口腔・鼻腔の吸引、回復体位等)について実践力が身につくように取り組んでいる。新人研修は、日々の業務の中で、元管理者や先輩職員からの指導を受けて学べるよう支援している。外国研修生への指導の為に技能実習生指導員・生活相談員資格を取得するための支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年だと、他施設との運動会を年2回程行っていたが、コロナの影響で出来ていない。連絡会、部会にも案内があればコロナの影響も見てオンライン等を活用して積極的に参加する様にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至るまでの状況を出来るだけ把握し、要望を聞く。本人が安心できて、馴染みの対応になる様に本人の言葉に耳を傾けたり、行動やしぐさ等から気持ちを受け止め、良い関係性を築く様に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には度々ご家族の思いを受け止め安心していただき信頼関係作りや、ご家族の要望を聞き、不安な事、困っている事など把握し対応する様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を見極め、他事業所などと連携をとりながら、ニーズに合ったサービスを考えている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を見逃さず、役に立つ喜びを共有し支え合う関係の構築に努めている。感謝の気持ちを言葉で伝え、ふれあう時間と関係を築いていく事を大切にしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係を継続できる様に面会時や(コロナの影響で状況を見て出来ない事もある)、毎月のお手紙で近況をお伝えし、連絡を取りながら支援の中で、本人を家族と共に支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで、ご本人が培ってきた人間関係や、場所等を本人やご家族様より把握し、つき合いを続けられるように声掛けし、支援出来る様に対応している。面会時にも、懐かしい顔ぶれで喜ばれる事がある。	コロナ禍での面会制限を行っている中、家族や親戚は玄関スペースでの短時間面会や窓越しでの面会(県外)を行っている他、年賀状や手紙、代表者の携帯を活用しての交流を支援している。馴染みの「うどんカフェ」に行ったり、スーパーに行き、思い出の食べ物やおやつを買って食べるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や、1人ひとりの性格や状態を把握し、座る席の位置や、誰もが孤立しない様に楽しく過ごせる様に関わりを大切にし、利用者同士が楽しく、安心して過ごせる様に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の間に培われた関係の継続。終了後も相談の働きかけや支援に努め、関係の継続を大事にしている。ご家族からも電話やお手紙で現状を教えて下さることある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日々の発言、表情等を読み取り、入居者様の視点に立ち、気持ちに寄り添う様に意向の把握に努めている。ご家族様にも情報を頂き進めている。	入居時に、事業所独自のアセスメントシートを活用して、本人や家族から、生活歴やこれまでの暮らし方、嗜好、大切にしている物、趣味、得意なこと等を聞いて記録している。日々の関わりの中で、利用者の発した言葉や表情、行動を介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、過去の関係者や家族、職員間で利用者の行動や表情、仕種から意向をくみ取り、ミーティングで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様からこれまでの情報を得て、サービスに反映させる様に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況を記録し、申し送りを通して日々の変化を見極め、変化があれば、スタッフ同士、代表者、管理者と話し合い、対応している。一人ひとりの1日を通して生活の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書に基づき月1回モニタリングを行い、見直しを行う。職員の意見やミーティング、月々職員が提出する経過等で情報を共有している。状態の変化がある場合は、話し合い計画作成担当者は計画書の変更をしている。	計画作成担当者を中心に、本人、家族の思いや意向、主治医、看護師等の意見を参考にして職員間で話し合い、介護計画を作成している。職員は月1回、利用者一人ひとりの状態の経過表を作成し、その記録を参考にして話し合っている。1ヶ月毎にモニタリングを行い6ヵ月毎に見直しをしている。新しく入居した利用者は3ヵ月後に見直し、家族や本人の状態に合わせたケアプランの更新を行っている。利用者の状態に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡帳に、入居者様の変化や服薬の事、往診の結果などをそこから共有している。又、個別記録には食事、水分、排泄、バイタルなどの状況や変化や一人ひとりの日々の様子や発言等、ケアの気づきを記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族が安心できる様に、往診など今必要と思われる支援は積極的に取り入れている。(訪問看護など)負担となる受診や入院の回避。通所、短期利用、医療連携体制を状況に合わせて活かしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にボランティアの協力をお願いしたり、地域で行われるお大師参りに参加、定期的な訪問散髪、小学校、消防、民生委員からの呼び掛けなど定期的な関わりがある。(R2年度はコロナの影響で中止をした。)		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力と同意を得て、かかりつけ医の往診支援を行っている。身体状況等、変わりがあればご家族様に電話で報告をしている。	利用者、家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月に2回の訪問診療がある他、希望に応じて歯科の訪問診療もある。受診は事業所で支援し、家族の同意が必要な場合は家族が同行している。診療結果等は1ヶ月毎の手紙送付時に家族に報告している。日常の健康管理は訪問看護師と連携し、バイタルチェック表(経過表)で健康観察を実施している。24時間オンコール体制であり、緊急時や夜間でも協力医療機関と連携を取り適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職が連携をとりながら適切な受診やかかりつけ医への報告、往診時等の対応につなげている。必要時にはすぐに看護師へ連絡出来る体制にある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は早期退院できるように病院関係者、本人・家族との情報交換や相談に努めている。日々のお見舞いで入居者様に負担が掛からない様、出来る限りの支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は早い段階から、かかりつけ医、ご家族様と話し合いを重ね、関係者全体の方針の統一を図っている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いを行っている。	契約時に、「重度化した場合における看取り等に関する指針」を基に、事業所のできる対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や看護師と話し合って方針を決めて、職員間で共有し、本人や家族の気持ちに沿う支援ができるよう取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	救急救命法や、感染に関する知識などを外部又は、看護師に指導をお願いしている。又、ひやりはつから改善策を代表者、職員と話し合いをしている。職員全体の実践力を身に付けられる様、事故防止のための方法の習得を代表者、管理者より指導を受けている。	事例が生じた場合は、「事故・ひやり・はつと報告書」に記入し、職員に回覧後は、月1回のミーティング時に職員間で話し合って共有し、再発防止に取り組んでいる。令和2年の1年間のヒヤリハット報告を集計分析し、転倒の危険のある人にはその人にあった転倒防止リハビリや安全性に配慮した車いすの使用等の支援に努めている。事故対応については、消防署の協力で救急救命法とAEDの使用方法を学んでいる他、看護師が講師となり、打ち身、捻挫、骨折、誤嚥、口腔・鼻腔の吸引、回復体位など、実践力を身につけるように取り組んでいる。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民、消防署の参加、協力を得ながら、年1回の避難訓練を行っていたが、コロナの影響でR2年度は中止。定期的に訓練の実施、災害時、火災時の対応を防火管理者は職員に伝えている。R2年9月の実際の台風で浸水の危機を想定し、2階へ避難した。	コロナ禍の影響で、防災訓練を中止したため、防火管理者が毎月、防災マニュアルに沿って、火災や台風、水害時の対応について職員に伝えている。9月の台風接近時には、高潮の予報があり、利用者全員を事業所2階に避難誘導して一夜を明かすなど実際の避難訓練を体験している。就寝時にはベッドが不足し、利用者が床に寝て、普段とは全く違った介護体験を経験するなど、職員や利用者にとって貴重な体験となっている。「火災専用通報装置」があり、緊急連絡網には近隣8戸が加入しているなど、地域との協力体制を築いている。非常食品(米、水、レトルトカレー、缶詰等)やカセットコンロやボンベを備蓄している。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう声かけ等に配慮している。さりげない対応、配慮に気を付けている。職員同士が注意し気を付けている。	職員は、ミーティングの勉強会で学び、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや態度に気を付けている。気になる対応があれば、職員同士が注意しあったり、代表者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、そこから一人ひとりの希望や嗜好を職員は把握し、利用者が自分らしく過ごしやすい状況作りを行うようにしている。利用者本位でゆったりと利用者の呼吸に合わせている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にして、本人の希望に沿って、無理強いせずに臨機応変に支援している。(眠たい時は、様子を見ながら無理には起こさない等)行動や表情を察して利用者様1人ひとり個別に対応し支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をといたり、髭を電気シェーバーで剃ったり、ご自分で衣類を選んでいただいたり、身だしなみは綺麗にする様に職員はさりげなく配慮している。訪問で散髪をお願いしている。お一人おひとりのご希望や雰囲気を大切に支援をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはお手拭きを配ってもらったり、食器を洗ったり、準備と片づけを一緒にしている。食事がおいしく食べられる様に支援している。地域の方よりいただいた季節の食材も取り入れている。	食事は、外部の宅配業者の食材を利用している。地元から差し入れの新鮮な食材や畑で収穫した旬な野菜を活用し、副菜一品と汁物を手づくりしている。利用者は、食材の下準備（茹の皮をむく、ゆで卵の皮をむく）、お茶を汲む、お茶を配る、おしぼりの用意、配膳、下膳、食器洗い、テーブルを拭くなど、できることを職員と一緒にしている。おやつづくり(ホットケーキ、ぜんざい、おはぎ、お好み焼き等)や、季節の行事食(お節、ちらし寿司、握り寿司、ウナギのかば焼き等)、利用者の食べたい物(握り寿司やケーキ等)を買い出しに行って提供する、「うどんカフェ」へ行って外食を楽しむなど、食べることの楽しみを工夫して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量をチェックし記録。利用者様の希望で食事の時間をずらしたり、好みの物を勧めたりして1人ひとり合った支援をしている。食事形態(おむすび、ミキサー食など)を工夫して食べ易い様に配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に1人ひとりに対する口腔ケアの働きかけをしている。スポンジブラシを使用したり、歯ブラシを使用したり、それぞれに合った方法で行っている。夜間は義歯を外していただき、それぞれにケースに入れて消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを記録より把握し行動、表情など察知して、トイレへのさりげない誘導や声掛け、パット確認をしている。介助の際は羞恥心やプライバシーの配慮、周囲へ気づかれないような声掛け等に配慮している。	排泄チェック表を活用して、排尿排便のパターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行いトイレでの排泄の自立に向け支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便出なくなって何日目か気をつけ、看護師に伝えて下剤などの服用をしている。朝一番に牛乳を飲むことや、水分を無理なく多めに摂っていただくなど工夫し、なるべく自然排便を促している。食材、メニューの工夫をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	リフト浴、ストレッチャー浴を取り入れ、個々に応じた対応を行っている。拒否時は無理せず時間を置いたり、違う職員に交代する等をして心身共に気持ち良く入浴出来る様に支援を行っている。入浴したい希望を優先している。	入浴は毎日可能で、9時30分から11時30分までの間と、13時30分から15時30分までの間に、職員との会話を楽しみながら、ゆったりとした入浴支援を行っている。利用者の状態によりシャワー浴や清拭、リフト浴、ストレッチャー入浴、足浴があり、季節のゆず湯を楽しむこともある。入浴をしたくない利用者には無理強いをせず、時間をずらしたり、声かけの工夫をして支援している。玄関の道路側に向けて足湯の設備があり、温泉の入浴剤を使って楽しんでいる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの日々の状況に応じて無理なく安心して気持ちよく眠れるように支援している。記録等の睡眠のパターン、様子等を見て入眠時間になったら声掛け誘導を行う。日中も様子を見て居室にお連れし横になっていたいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された服薬(変更など)は看護師から、連絡帳にその旨を記載している。服薬ファイルに個別の情報あり。服薬後の経過を職員から看護師、かかりつけ医と共有している。服薬介助の際は職員同士で確認しきちんと服用できているか確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その利用者の状況を見て、食器洗い、縫い物や、新聞紙をたたむ、洗濯物を干したり、たたんだり、体操、レクリエーション(風船ゲーム、童謡など歌唄う)を実施。日々の散歩、お花の水やり、草取り等。	掃除(モップで拭く、掃く)、洗濯(干し、取り込み、たたみ、自室に収納)、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水を換える、食器洗い、食事の号令、食事の準備や後かたづけ、プランターの花への水やり、草抜き、野菜の収穫、芋ほり等、利用者一人ひとりの得意分野で力が発揮でき、活躍できる場面づくりを行って家族的な雰囲気の中で自分が役立っていることを実感してもらえるよう支援している。テレビ視聴(動物や子供が出る番組、相撲、歌番組など)、ラジオ、CDを聞く、本や雑誌、新聞を読む、写真集を見る、折り紙、ぬり絵、書初め、縫物、歌を歌う、カラオケ、カルタ、トランプ、お手玉、風船バレー、ボール遊び、ラジオ体操、テレビ体操、足の体操、口腔体操、脳トレ(計算ドリル、四文字熟語、しりとり)等、それぞれの楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年、向島へ寒桜見学やあじさい見学、運動会の実施、季節毎の行事を行っていたが、コロナの影響でR2年度は中止した。日常の散歩(桜の木々を見に行ったり、海を見にいったり)近くのうどん屋さんに車で行く等、利用者が楽しめる様な支援を考え実施している。	日常的に施設の周辺の散歩や日光浴、近くの花見(桜)や、市内の馴染みの地へドライブに出かけている。「うどんカフェ」に出かける他、個別の希望による散歩(近くの海)や買い物など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていただいていないが、希望があれば、お渡し出来る様に支援している。お預かり金の帳面を個別に作成しており、毎月の使用状況はご家族様に毎月確送付して確認していただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の使用をし、手紙も自由にやりとり出来る環境にあり、支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花を飾ったり、料理には季節の食材も取り入れている。ホールにはソファや、ベッドでくつろいだり出来る様にと支援している。利用者様の視点に立った心地よい環境作りを目指している。	玄関には季節の花が活けてあり、壁には行事の写真が貼ってある。道路側に向けて足湯が設置してある。リビングの大きな窓からは周囲の風景が見えて、季節の移り変わりを感じることができる。庭のプランターの花やウッドデッキが見え、陽の光が程良く差し込んで明るく暖かい。室内には、テーブルや椅子、ソファを配置し、壁には壁掛けテレビが設置しており、手づくりカレンダーが飾ってある。台所からは、食事の準備の音や匂いが漂い、生活感を感じることが出来る。感染予防を考え、温度や湿度、換気に注意を払って安心して過ごすことが出来るように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりしたい時は、居室で過ごされたり、玄関先に出て、外を眺めたり思い思いに過ごされている。ホールにはソファがあり、居心地の良い空間作りを目指している。希望や表情等見て、場面にあった声かけしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌や、壁掛け時計、テレビ、クッション、杖など使い慣れた好みの物を持ち込んでいる。壁面には、ご家族の写真を飾って居心地良い空間を支援している。	テレビ、ラジカセ、位牌、机、椅子、時計、衣装ケース、寝具、鏡、ぬいぐるみなど、使い慣れたものを持ち込み、家族写真やカレンダー、人形、フラワーアレンジメントなどを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人に合った用具の工夫。ゆっくり出来る様に、リクライニング車いすの使用、ポータブルトイレの位置、移動し易い様な席の位置など、できるだけ自立した生活が送れる様にその方の状態を見て臨機応変に対応している。環境整備に気を付けている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 きらら苑グループホーム

作成日: 令和 3 年 8 月 12 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけたい。	全職員による応急手当や初期対応の訓練などを定期的に継続する。	看護師と共有し、気道異物除去、止血の方法、骨折時の応急処置、火傷の応急処置、回復体位等の応急処置や感染症などの予防など全職員が把握できる様、指導、回覧形式にして全職員が周知できる様に継続していく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。